

《 渡航者ワクチン接種後の注意事項 2015・7 》

今日は、息切れするような激しい運動は避けてください。入浴はかまいません。
明日は、熱もなく体調さえ良ければ、運動や入浴など普段と同じ生活で結構です。
これらの不活化ワクチンの後は、1週間以上あけて他の種類の予防接種をしてください。
【破傷風ワクチン（Tetanus toxoid）について】

副反応

初回接種の時は約1週間後に、2回目以降では2～3日後に接種部位が赤く腫れ、かゆくなるのが稀にあります。2～3日で消失しますので心配はありません。大きく腫れたら湿布してください。次回受診時に教えてください。

有効性

このワクチンは、1回だけでは効果がありません。約4週間後に2回目の接種を、約1年後（6カ月以上2年以内）に3回目を接種します。3回で基礎免疫です。約10年間有効です。この3回目はDPT3種混合で追加すると、他の2種類（DPT参照）にも効果が有利。海外渡航などで時間に余裕のない時は2回の接種で出発し、一時帰国時などに追加接種してください。1回だけでも接種しておけば怪我をした時の緊急の処置に有利です。2回接種すれば約2年間は効果が期待できます。1回で行くときは現地での追加を計画ください。

備考

昭和43年以前に生まれた方は、子どもの頃に接種していないので接種しておいた方が安全です。当時はジフテリアと百日咳のDP2種混合で接種していました。破傷風は世界中に広く分布していますので、成人の海外渡航者にとって大切なワクチンです。

昭和44年4月以降接種のDPT世代の方は、DPT3種混合で1回追加します。破傷風の3回目の追加は、DPT3種混合で0.5mlで、追加接種することを推奨しています。

激しいスポーツをしたり、建設や園芸や農林業などにたずさわると、そして山野を駆け巡り自然と接する機会の多い方は、10年毎に接種しておくのが安全です。その時はDPT3種混合またはDPT-IPV4種混合の0.2ml（将来的にはTdapで0.5ml）で追加します。

欧米豪先進国への渡航に際しては、破傷風2回の一方をTdapでの接種を推奨しています。

【DPT3種混合（ジフテリアDiphtheria、百日咳Pertussis、破傷風Tetanus）について】

《現在DPTが入手不能なのでDPT-IPV(不活化ポリオ)の4種混合で代用します。注意は同じです》

副反応

接種後2日以内に、稀に（約3%の人に）38℃程度の熱が出ることがあります。約20%の人で、2日以内に接種部位が直径5-8cm程度に赤く腫れたりすることがありますが、腫れは3～4日でひきますので心配はありません。ひどければ冷湿布するか、翌日に受診してください。極く稀に接種部位の皮下に小さな“しこり”が残ることがありますが、1カ月程で自然に消えていきます。後遺症が残ることはありません。

有効性

子どもの頃に接種しているはずの3種または2種混合ワクチンの接種が不十分な人は、今回の1回の追加接種だけでは効果が期待できませんので、さらに1ヶ月後に追加接種する必要があります。大切なワクチンですので、基礎免疫から計画しますので相談してください。追加接種から約10年間有効です。10年後の追加接種は、1回DPT:0.2mlの少量で十分です。海外で生活する人や激しいスポーツをする人、また園芸や登山など土に親しむ人は10年毎に追加接種しておいた方が安全です。追加は、DPT:0.2ml（4種混合またはTdapでも）で大丈夫です。DPT世代に破傷風での追加接種は絶対にしないでください。必要量の5～10倍を接種することになりますし、百日咳には全く無効です。

【日本脳炎ワクチン（Japanese encephalitis：JEBIK V, Encevac）について】

副反応

2～5%の人で、2日以内に接種部位が赤く腫れて、微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配ありません。極稀にギランバレー症候群という脳炎症状の報告がありますが、後遺症を伴うことはまずありません。数年前にADEMという副反応が注目されましたが、因果関係が否定されていますので心配ありません。

小児では稀に5・8%程度で当日に熱発することがありますが1日で平熱に戻りますので心配ありません。熱性けいれんのある人は注意ください。

有効性

このワクチンは、1回だけではあまり効果がありません。小児での初回接種は、通常は3歳（生後6カ月以上で可能）に4週間の間隔で2回、翌年に1回の追加接種をします。この追加接種は6カ月以上、3年以内でかまいません。もし3年以上開いてしまった場合でも、早々に追加接種をしておけば大丈夫です。特殊な場合はご相談ください。この3回で1期[基礎免疫]が終了です。2期として9～12歳（1期完了後5-8年）で追加接種します。その後は約10年間有効です。基礎免疫の確認できた成人は1回の追加で十分です。

備考

仕事などで東南・南西アジアに滞在される方は、乳児・成人とも接種してください。

乳児も生後6ヶ月以上で定期接種です。その場合の1期の追加は1年後ではなく、3才過ぎに予定すると有利です。基礎免疫が確認できない成人は、せめて2回は接種してください。基礎免疫が済んでいればとりあえず1回、あとは10年毎に追加接種してください。

【A型肝炎ワクチン（Hepatitis-A：Aimmugen, Havrix, Hepatyrix）について】

副反応

接種時の痛みはありますが、副反応はほとんどありません。極稀に微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。

有効性

このワクチンは、1回だけではあまり効果がありません。2～4週間後に2回目を接種し、2回目のあと3～5ヵ月（遅くとも2年以内）で3回目を接種します。3回で約10年間は有効です。海外渡航時にはぜひお勧めしますが、渡航までの時間が少ない時は1週間以上あけて2回の接種で出発し、2年以内に（一時帰国時など）追加接種してください。1か月以内の短期の出張なら帰国後に2回目を追加接種してもかまいません。短期でも3回目を忘れないでください。輸入のHavrixは、1回で6-12ヵ月、追加の2回で10年有効です。腸チフスと混合のHepatyrix、Vivaximも準備しています。追加はHavrixで接種します。

備考

海外渡航者にとって大切なワクチンです。西欧やオセアニアなどは比較的少ないものの世界中で広く流行しています。特にアジア・アフリカ・中南米等に滞在される方や何度も旅行や出張に出かける方はきちんと接種しておいた方が安全です。

欧米製は2倍量含まれていますので、6ヵ月から1年あけて2回で終了です。接種回数や考え方が違いますので注意ください。国産のA型肝炎ワクチンは安全で有効なワクチンですので、海外で生活をする2-3歳以上の方にはお勧めします。10歳未満の小児は、海外に準じて2回法で接種しています。A型肝炎は途上国では最も罹りやすい疾患の1つです。なお乳児は感染しても発病しにくいので、不顕性感染として免疫ができます。途上国、特に郊外で生活している人や、70歳以上の日本人の多くは、免疫を持っています。

【B型肝炎ワクチン（Hepatitis-B：Bimmugen, HeptavaxB）について】

副反応

接種時の痛みはありますが、副反応はほとんどありません。極稀に微熱や風邪症状及び発赤腫脹が見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。

有効性

このワクチンは、1回だけでは効果がありません。4週間後に2回目を接種し、2回目のあと3～5ヵ月（遅くとも2年以内）で3回目を追加接種します。3回まで接種して基礎免疫です。免疫が付けば、接種後約5～10年間は有効ですが、念のため定期的な血液検査をお勧めします。特に成人は3回目の接種時、または終了後1ヵ月あるいは一時帰国時に検査を勧めます。血液や体液を介しての感染がほとんどですが、医療行為や患者との比較的濃厚な接触には注意が必要です。同居家族にB型肝炎ウイルス抗原陽性の人（キャリアー）がいたり、医療関係者は接種しておいた方が安全です。成人は免疫がつきにくいので、感染リスクの高い人は2回接種後、または3回接種時にぜひ検査しましょう。

備考

長期の海外渡航時やボランティア活動などでお勧めします。渡航までの時間が少ない時は2回の接種で出発し、2年以内に（一時帰国時など）追加接種してください。

世界のほとんどの国では乳児期の定期接種になっていますので、渡航先で現地の保育園や学校に通学する場合にも必要になります。子どもには世界中で必要なワクチンです。

【狂犬病ワクチン（Rabies：Verorab, Rabipur）について】

副反応

約5%の人で2～3日後に接種部位が赤く腫れたり、微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。国産ワクチンは、乳幼児の約10%で接種当日に発熱することがありますが、翌日の昼には平熱に戻りますので心配ありません。熱が高ければ座薬を使用してもかまいません。Verorabではほとんどありません。

有効性

このワクチンは1～2回だけでは効果がありません。国産は、2～4週間の間隔で2回、6ヵ月後に3回目で基礎免疫です。咬まれた時に初めの2-3回〔0-3-(7)日〕の接種が必要です。約3年間は有効とされています。日本式では出発までに間に合わないのが通常は、WHO方式〔0-7-21(28)日〕で接種します。リスクが高い時はWHO方式に加え1年後に4回目を追加してください。2回までの接種で咬まれたら、5回の接種が必要です。

備考

犬や野生の哺乳類（コウモリやサルなど）に咬まれた時は、傷口を中性洗剤で良く洗浄消毒し、基礎免疫が無ければ少なくとも5回の追加接種〔咬まれた日を0日として、0・3・7・14・30日後〕が必要です。3回の基礎免疫があれば、咬まれてから1週間以内に、必ず初めの2-3回接種をします。手遅れになると通常は約1ヵ月後（最長3ヵ月後）に発病します。発症すると致死率100%ですので、早期に医療機関を受診し組織培養ワクチン（Verorab, Rabipurなど）で曝露後接種を始めて下さい。必ず指示通りに4-5回の接種完了して下さい。仕事や旅行などで中南米・アフリカ・中東・インドシナ・インド・ネパール・中国等の奥地に長期滞在する人や野生動物と接触する機会の多い方は、WHO方式で3回の基礎免疫をつけて行って下さい。西欧・北欧・オセアニア・日本以外は注意したい。